

2015 年度 学校評価(自己評価)

2015 年度は次の各項目を重点目標として設定し、その他の教育活動も含め、さらなる向上を図った。

1. 日常教育活動全般の充実と改善
2. 高校新教育課程完成年度の適切な実施
3. Waseda Vision 150 (大学全体) で改革を進める本部・各学院との連携
4. Waseda Vision 150 (学院) に基づく構想の具体化
5. 中学部・高校の協力関係の深化
6. SSH、SGH 校としての十分な活動と外部への情報発信
7. 3つの視点の意識化
 - 国内外の学校と学院との比較
 - 早稲田大学内の学院への期待と位置づけ
 - 学院の教育内容・方法の改善
8. 2期工事後のキャンパスの運用と今後の展望検討
9. ソフト・ハード面での災害への備え

以下、各目標についてその遂行状況を概観する。

1. 日常教育活動全般の充実と改善

キャンパスの工事も終え、CALL 教室のパソコンをリプレイスするなど、ハード面での充実がこれまで以上に進んだ。また、教科指導、生活指導、保護者との連携等、ソフト面での充実もはかった。発達障害に関する FD や救急法講習会等を開催し、教育活動全般の向上を目指した。

2. 高校新教育課程完成年度の適切な実施

2013 年度からスタートした新教育課程の完成年度となったが、現在のところ順調に進んでいると考えられる。新学習指導要領を遵守しつつも、さらに充実した授業等が展開された。

3. Waseda Vision 150 (大学全体) で改革を進める本部・各学院との連携

Waseda Vision 150 に記される本部・各学院の内容をふまえ、高等学院においては、例えば対話型、問題発見解決型の授業がこれまで以上に取り入れられ、早稲田大学が挙げて

いる核心戦略を意識した教育活動が展開された。また各学院との懇談も実施し、問題意識の共有、意思疎通を図った。

4. Waseda Vision 150 (学院) に基づく構想の具体化

上記3. で示した通り、Waseda Vision 150 を意識した授業が展開されたことに加え、スーパーグローバルハイスクールとしての活動が2014年度よりも具体的に進行し、グローバルリーダー育成に向けたさまざまなプログラムが展開された。スーパーサイエンスハイスクールの活動においても、学会等で表彰を受けるなど継続して成果を出した。

5. 中学部と高校の円滑な接続

中学部第一期生の高校卒業をむかえ、高等学院における6年間のサイクルを初めて終えた。中学部卒業生が3学年に揃ったことになるが、学業面、生活面において他の模範となることも多く、また、生徒会会長、副会長ともに中学部卒業生となり、学校をリードする存在となっていることは間違いない。

6. SSH、SGH 校としての十分な活動と外部への情報発信

SSHは指定10年目をむかえたが、卒業論文執筆や学会発表等と関連付け、さまざまな活動を実施し、また外部への発信を図った。

SGHは2年目であったが、フィールドワーク（オーストラリア、対馬、青森、沖縄にて実施）やSGHウィーク、SGH成果発表会を実施するなど、昨年度以上に充実した活動、外部への発信を行った。

7. 3つの視点の意識化

SGHの活動が2年目に入り、さまざまな学校等と新たな交流を始めることをきっかけとして、教員も国内外で新たに情報交換の機会をえることができた。文科省主催のSSH、SGH情報交換会をはじめ、多くの機会を利用して学校の将来について知見を深めた。

また早稲田大学の未来を展望するVision 150と軌を一にして学院の改革を進め、生徒の学習機会などが改善された。

8. 2期工事後のキャンパスの運用と今後の展望検討

講堂と体育館等の完成、北川グラウンドの人工芝化の完了等、施設の充実が図られたが、

その運用は順調に進められている。

理科教室などを含む第3期工事の早期の着工を展望する。

9. ソフト・ハード面での災害への備え

第2期工事を終え、備蓄品の管理・確保が改善された。また、帰宅困難時の経路確認、防犯・防災訓練を実施し、災害時に備えた対応がなされた。

以上

2015年度 保護者・生徒を対象とした学校評価アンケートについて

2015年度の重点目標の内「1. 日常教育活動全般の充実と改善」をより一層推進するため、保護者・生徒を対象にしたアンケートを実施した（2012年度に引き続き4回目）。以下（1）質問項目、（2）アンケート結果、（3）アンケート結果の分析と改善点等を述べていく。

（1）質問項目

I 学校全体の取り組みについて

- I-1. 高等学院は生徒の自主性・自立性の育成に努めている
- I-2. 【保護者】高等学院は中学。高校と大学との連携に努めている
【生徒】（高校）高等学院は高大一貫教育の推進に努めている
（中学）高等学院は中高一貫教育の推進に努めている
- I-3. 高等学院は国際交流の推進に努めている

II 学習指導について

- II-1. 指導方法を工夫し、質の高い授業が行われている
- II-2. 生徒の進度やレベルに合った授業が行われている
- II-3. 生徒一人ひとりの学力を伸ばす授業が行われている
- II-4. 適切な評価が行われている

III 生徒指導について

- III-1. 組主任は生徒の欠席・欠課・遅刻の状況を把握し、生活面の指導を適切に行っている
- III-2. 組主任は生徒の成績を把握し、学習面のサポートを適切に行っている
- III-3. 組主任は進級・進学などのルールについて、保護者・生徒へ適切に説明を行っている
- III-4. 組主任は学部・学科などの情報を保護者・生徒に提供し、適切に進路指導を行っている
（生徒は高校のみ）

IV クラブ活動について

- IV-1. 生徒の安全面に配慮した適切な指導が行われている
- IV-2. 部長（顧問）は部員とコミュニケーションを取り、生徒の把握に努めている
- IV-3. 部長（顧問）は部活動の内容について、保護者へ適切に情報を提供している
（生徒は高校のみ）

V 授業や勉強へのあなたの取り組みについて【生徒のみ】

V-1. 私は授業に積極的に取り組んでいる

V-2. 私は授業時間以外にも積極的に勉強をしている

(2) アンケート結果

別紙の表およびグラフを参照していただきたい。

(3) アンケート結果の分析と改善点等

I 学校全体の取り組みについて

質問項目1. 「生徒の自主性・自立性の育成に努めている」においては保護者全体で57.3%（昨年度58.2%）、生徒全体で31.9%（昨年度36.6%）が「そう思う」と回答している。生徒全体では「そう思う」の評価が昨年度より下降したが、「ややそう思う」の評価を加味すると、生徒全体で71.2%（昨年度74.1%）の回答を得たことになる。本校の目指す教育理念として「生徒の自主性・自立性の育成」をさらに実践していく必要があると思われる。

質問項目2. 「高大一貫教育の推進に努めている」（高校）、「中高一貫教育の推進に努めている」（中学）では、高校の方は高校生全体で「ややそう思う」が34.5%（昨年度37.4%）と最も多く、「そう思う」（22.6%）と合わせると57.1%（昨年度68.5%）となった。昨年と比べると評価が下がり、高大一貫教育の推進をこれまで以上に進めていくことが必要である。一方、中学では「中高一貫教育の推進に努めている」という問に対して「ややそう思う」が29.5%と最も高い結果となった。今後は高等学院において可能な中高連携の在り方を模索し、実践していく必要があると思われる。保護者の方では、中高とも同一の質問項目「高大一貫教育の推進に努めている」に対して、昨年度同様に「そう思う」が最も高い結果を得た。

質問項目3. 「国際交流の推進に努めている」では生徒全体で「ややそう思う」が40.0%（昨年37.0%）、保護者においても「ややそう思う」が45.9%（昨年度44.4%）と最も多く、生徒・保護者とも昨年度より微増している。グローバル社会を見据え、今後さらに国際交流活動を推進することが必要である。

II 学習指導について

質問項目1. 「指導方法を工夫し、質の高い授業が行われている」に対して、中学生・高校生とも「ややそう思う」が最も高く（中学47.9%、高校31.5%）、「そう思う」と合わせると、中学73.8%（昨年度76.1%）、高校49.8%（昨年度53%）となっている。中学は評価が下がったが、比較的高水準を維持していると言えるだろう。高校も評価が下がり、肯定的にとらえている結果が50%を下回った。授業の質の向上のため、さらに日々の研鑽を積み重ねなければならない。

質問項目 2. 「生徒の進度やレベルに合った授業が行われている」および質問項目 3. 「生徒一人ひとりの学力を伸ばす授業が行われている」の評価が昨年度同様相対的に低くなっている。ただ低評価（「そう思わない」）ということではなく、生徒に関しては「どちらとも言えない」が最も多いので（質問項目 2. 生徒全体 32.5%、昨年度 34.1%。質問項目 3. 生徒全体 33.1%、昨年度 34.0%）、各教員の取り組みが生徒に正しく伝わるような説明・授業展開を考える必要があるだろう。また、生徒一人ひとりの特性が生かされるような取り組みが求められる。

質問項目 4. 「適切な評価が行われている」では、生徒・保護者とも「ややそう思う」が最も高くなっている（生徒全体 31.4%、保護者全体 45.7%）。本校では日々の授業に対する評価が進級・進学に非常に重要となるので、「そう思う」という評価が最も高くなるよう、改善に努めなければならない。

Ⅲ生徒指導について

1～4 全ての項目において「そう思う」あるいは「ややそう思う」が各学年とも最も多い回答になっており、昨年度に引き続き、保護者・生徒ともに高評価が得られている。組主任と生徒・保護者との間で情報共有が適切に行われており、生徒に対する生活面・学習面でのサポート態勢が組み立てられていることが、この結果から理解される。

また、卒業生全員が早稲田大学へ進学することが前提となっている本校では、早い段階から生徒へ意識づけを行い、自身の進路について考えさせる教育を行っている。学部説明会やモデル講義、本校 OB である学部生・大学院生と本校生徒との懇談会等を開催し、学部・学科の情報を生徒・保護者へ伝えている。これらの取り組みについては、今後さらにこのような機会を設定し、生徒が適切に進路を決定できるよう努めていきたい。

Ⅳクラブ活動について

質問項目 1. 「生徒の安全面に配慮した適切な指導が行われている」について、保護者全体では昨年度同様高い評価を受けた。特に高校では「そう思う」が最も多く、36.7%（昨年度は「ややそう思う」が 34%で最も多かった）であった。一方で、高校生全体では「ややそう思う」（31.0%）が最も多くなり（昨年度は「そう思う」が 32.2%で最も多かった）、昨年度より評価が低くなった。

また、質問項目 2. 「部長（顧問）は部員とコミュニケーションを取り、生徒の把握に努めている」については、保護者全体では「そう思う」が最も多く（31.6%）、昨年度（「ややそう思う」が 30.8%で最も多かった）より改善が見られた。一方で、高校生全体では昨年度同様「そう思う」が最も多かったが（30.2%）、中学生全体がややそう思うが最も多く（29.4%）、昨年度より低い評価となった（昨年度は「そう思う」が 35.2%で最も多かった）。

以上 2 項目から、部長（顧問）と当事者である生徒との間にさらに密な連携をとるよう徹底しなければならない。

高校生への質問項目3.「部長（顧問）は部活動の内容について、生徒へ適切に情報を提供している」は昨年同様高校1・2年生で「そう思う」が最も高く、僅かな差ではあるが、高校3年生で「どちらとも言えない」が最も高い評価となっている。一方、保護者の方では全体で「ややそう思う」が最も高い結果となっており（25.8%）、「そう思う」（24.5%）と合わせると50.3%と高評価になっている（昨年度50.4%）。部長（顧問）と生徒・保護者との連携がさらに密になるよう、今後とも取り組んでいきたい。高校生活におけるクラブ活動の意義は大きく、本校でのクラブ活動への参加率はかなり高い。今後ともさらに安全面に配慮し、部長と生徒・保護者との関係を密にすることで、生徒にとって有意義な活動となるよう努めていきたい。

以上